

人間の目利き

～アラブから学ぶ「人生の読み方」

曾野 綾子・吉村作治（エジプト考古学者）

{ イスラム国 }

究極は地球をイスラム教の一つの国にしようという組織であり、イラク・シリアで奪った原油・ガソリンを売り、人質を取って身代金を要求・金を出さないと同国人に殺させる等で1ヶ月の収入は1億ドルと云われている。

兵士5万人の内2万人は外国籍・最初は3百ドルの日給で誘い、来たら麻薬でぐちゃぐちゃにしてしまう。

日本の危機管理の甘さ（国内飛行機・新幹線ではノーチェック）
兵士の2割は母国に帰りテロ活動をしようとしている。

{ エジプトで米国人は悪魔で日本人は優しいバカと思われている }

技術力が高いのに中国・韓国に盗まれてニコニコしている、いい人たちで金持ちだと。

エジプトでは騙されている人はい人だと、米国は湾岸戦争で多国籍軍としてクウェートに侵攻、日本はその後始末をした。

クウェートはその恩義を感じて東日本大震災の時に巨額の支援金を拠出した。

{ アラブ人は異邦人に厳しい }

先ず自分の家族が一番大事、次に親戚、よき友（自分に得なことをしてくれる）友人、知らない人、そして敵。

アラブ社会では「同胞」「同胞の準ずるもの」「異邦人」の三種類のみ、異邦人に対しては厳しい掟で対処し、真の情報は流さず、偽・反対情報を流す。

{ アラブのIBM }

「I」は神の思し召しのままに「B」は明日「M」気にするな、アラブ人と付き合う場合に最も必要な心構え、例えば～仕事で本気にやるかと問えば、インシャアッラー「I」いったい何日できるかと問えば、ブクラ「B」結局出来なくてどうするのかと問えば、マレーン「M」

国会答弁・労組交渉・不都合なことへの答弁の模範解答のようだ。
神の思し召しのままに「I」は大人の知恵。

(例)

この金はいつ払ってくれますか～来月です「I」
今度からこんな間違いをしないでくれ～分かりました「I」
それでは明日午後に会いましょう～ハイ「I」

「I」は人間の存在の小ささを知る者だけが知る、「大人の知恵」

{ 家に老人がいないなら一人買って来い }

年寄りというだけで尊敬する、バスの乗客は窓側に上席として老人を座らせる、そして一番初めに降りていただく、年寄りは財産～沢山の経験を持っている、分からないことがあれば聞けるから宝物。

{ 間違ったら怖い笑顔の使い方 }

真面目な顔の人は嫌われる、ニコニコしている人が喜ばれる。
但し他人の赤ちゃんに笑いかけると魂が奪われると思われる。

「可愛い」「抱かせて」なんて言ったら悪魔だと思われる。

ジーと見つめるのもダメ、12歳位までは少なくとも触ってはいけない。

男性は女性に近づかない事～リビアでは女性の写真を撮って警官に連行されてブタ箱入り。

{ 人妻を誉めたら大変 }

物を誉めたらそれが欲しいと受取られる。

一番いけないのは人妻を誉めると奥さんをあげるかケンカになる。

人前に妻は出さないが、出す前提は離婚で「金を出したくないから」誉めるとその瞬間に、どうぞとなる。

{ 寄せ集めのアラブ民族 }

アラブとは元々「アラビア半島に住んでいる人」という意味。

11世紀以降、トルコに支配されていた、トルコ族の賢い点は、この地の大多数がイスラム教と知って自分たちも入信した。

20世紀にトルコから取り戻したが英国とフランスの植民地支配の思惑があった、更にユダヤ人が英・仏に資金援助してイスラエルという地を手に入れた。

1948年アラブ諸国はイスラエルを攻撃するも米・英・仏が肩入れして叩きのめされた(第一次中東戦争)その後第五次までの戦争でイスラエルは更に領土を拡大した。

アラブの定義は「アラビア語を話す人」達の集団。

イスラム教は「スンニ派の預言者ムハンマド・マホメッド」の言動を尊重する
穏健派、シーア派はシーア・アリー。

{ イスラム教はなぜ生まれたか }

古代エジプトからイスラム教（語源はイッサラーム＝心を平安に）まで一続き、
ユダヤ教が発生して（古代エジプトの宗教を否定して）千年後に反ユダヤ的な、
キリスト教が生まれたのでユダヤ教と同じところが多い。

キリスト教はユダヤ教のタブーを全部取った（割礼・食べ物等）
イスラム教・ユダヤ教・キリスト教は唯一絶対神を崇拝する本質的には同じ宗教
イスラム教は16億人近く、ムハンマドの「今の不幸な人生が無駄にならない
教えが大衆をひきつけ「最後の審判で」この世の行いが悪い者が地獄に、敬虔
な者は天国へと。

特権階級には耳の痛い、アッラー（永遠の存在）の神の前では皆平等、現世での
善行で天国での幸福が約束されている。

一番大事なことは { 六信五行 }

六信とは、アッラー・天使・啓典・預言者・来世・天命を信じること。
五行とは信仰告白・礼拝・断食・喜捨・巡礼、イスラム教では「偶像崇拜」は
禁止、一日五回の礼拝。

{ 最後の審判 } キリスト教と同じ。

ユダヤ教の聖書にはモーセ五書・新約聖書の福音書・コーラン。
二五人の預言者～アダム・イブラヒム・モーセ・イエス・ムハンマドなどが、
最重要人物と。

{ 礼拝は睡眠に勝る }

夜明け前に礼拝呼びかけのアザーンで一日が始まる。
アッサラート・ハイルン・ミナン・ナウム＝礼拝は睡眠に勝るとの意。

{ 9月全世界のイスラム教徒は1ヶ月の断食 }

朝7時～夕方7時まで水もダメ、但し兵士・老人・子供・病人・妊婦・授乳し
ている母親・生理中の女性・旅人は除く。

{ 一生に一度は行きたいメッカ巡礼 }

イスラム歴第12番目の月の8日目から～10日目を中心に、メッカのカアバ
宮殿にお参りすること。

3泊4日で約100万円、今は800万人が限度、モタイフという旅行代理店のような組織が全てを仕切っている（宿泊場所は雑魚寝状態）巡礼希望者は定員の10倍いる。

信者の渦で亡くなる人もいる、8日目にはメッカから5kmのミーナの谷で、巡礼者は野営テントで埋め尽くされる。

アラファト山の頂にアッラーが下りてくるのを待つて4百万人位が夜明けを迎える。

犠牲の羊・山羊4～5百万頭を一度に屠る、血生臭さと熱気と音の凄さ、気温が2～3度上がる、羊・山羊肉は全て冷凍して貧しい人たちに配られる。

{ 人は生まれながらにして平等ではない }

日本人はよく「人は平等だ」と云うがアラブだとそんなことを言うと「お前は神か」と、神様以外に人を平等に扱えないと。

日本人のイヤのところは「今よりもっと幸福感が増して長生きしてほとんど悩みがないような生活が手に入る」と期待していること。

イスラムでは天命で決められているから仕方がないと。

日本人の究極の目的は「平等」人は生まれながらにして不平等だから、一人一人が平等になる努力をする。

政治や経済・宗教も努力して平等を目指すけれど皆が平等にはなれない。

{ 天災に会っても嘆き悲しまない運命論者 }

戦死は嘆く、天災で亡くなるのは天に召されたと考える「この世は過ぎ去るもの、あの世で復活して、この世で与えられなかった幸せを永遠に与えられる」とその為に、この世では悪事をせず、善行を施す。

メッカ巡礼で死ぬと、皆「良かった！良かった！」と砂漠に死体を埋めて墓標も立てない、例え王でも皆、土に還る、ファイサル王の墓は町中の荒地で石がゴロゴロあるだけ。

{ アラブでは談合が息づく世界 }

公開入札性はなく随意契約で何処までやっていいか・何処からはやっていけないかお互いに合意が取れている。

日本の談合の一番いけないのは政治家・役人の中抜き・利益の横取り。

{ 口約束を破ると命取りになる }

アラブの契約は口約束、但し異教徒は信用できないから契約書を作る、今でもユダヤ人同士は商売で契約書は一切作らない。

{ 裏表を使い分ける大人のアラブ }

アラブとイスラエルは仲が悪いからパスポートにイスラエル滞在の記録があると入国は認められないが、イスラエル側はパスポートにスタンプを押さしないで、紙を貼り付け、出る時は外す。

国交がない時期でも橋は開かれていて野菜や日用品が運ばれていた。

{ しつこいことはいいことだ }

あきらめない、健全な意味で粘り強い、値段の交渉・もめごとがあっても簡単には引き下がらない。

中東戦争は100年を超す、アラブとイスラエルの歴史は3300年前から始まっている、聖書の中で「求めよさらば～与えられん、叩けよされば～開かれん」と、そこではしつこく求めるのでパンが与えられる、例え夜中でも旅人の為に貧しい家の人や村の友人のところへ行って激しくドアを叩いて、パンを手に入れると。

{ 話し合っても分からない }

外交的に話し合っても、分かったという例は5千年間で一度もない。イスラエルと話し合っても解決はできない、宗教だけが物事の判断。

{ アラブのリーダーは命がけ }

日本の政治家は99%職業を間違っている～根本的に命がけでない。アラブは命がけで、政治の基本は部族との確執を抱えながら国のリーダーになることは半ば死を意味する。

国家の名を借りて国民を幸せにすることだと。
日本のリーダーは国民の為に云って国家優先主義。

{ 裏を読めるのが大人 }

アラブ人は最初の挨拶が長い、会話を通して相手の信頼性を査定している。